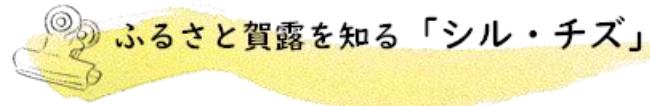


脱衣塚（えなづか）



鳥取市賀露町西3丁目あたり



聖武天皇の天平勝宝6年（754）、当時の遣唐副使吉備真備は、唐から帰国の折、九州沖で風波の難に遭って漂流し、賀露沖の「宮島」に漂着しました。その後、「宮島」から約30m離れた「大島」に飛び上がって避難したので、その島を「飛び上がり島」と呼びました。現在の「鳥ヶ島」です。

その後、真備公は住民の手によって島から陸地に「奉曳（ほうえい）」されました。現在の賀露神社の「ホーエンヤ祭」はこの故事に因んでいます。また、上陸直後に海水で汚れた着物を木製の箱に納めて埋めたと伝えられ、その地を「米倉（よなぐら）」または「脱衣塚（えなづか）」と呼び、現在も地名が残っています。（賀露港（鳥取港）の「みなと文化」_岡村吉彦 より）